

令和7年度第2回蒲郡市総合教育会議 会議録（要旨）

開催日時	令和8年3月26日（木）午後1時30分から午後2時30分まで
開催場所	蒲郡市役所5階 庁議室
出席者	<p>蒲郡市長 鈴木 寿明</p> <p>蒲郡市教育委員会 教育長 壁谷 幹朗 職務代理者 稲葉 千穂子 委員 田中 順 委員 松井 繁 委員 高橋 民枝</p> <p>【オブザーバー】 企画部長 牧原 英治 総務部長 小田 剛宏 教育委員会教育部長 岡田 隆志</p> <p>【説明者】 教育委員会事務次長兼学校教育課長 戒田 正敏</p> <p>【事務局】 企画部次長兼企画政策課長 小田 芳弘 企画部企画政策課主幹 伊藤 次郎 企画部企画政策課主事 大桑 智子</p>
議事	<p>1 部活動の地域展開について</p> <p>2 義務教育学校の開校に向けて</p> <p>3 教職員の働き方改革について</p>
会議資料	<p>1 部活動の地域展開について</p> <p>2 義務教育学校の開校に向けて</p> <p>3 教職員の働き方改革について</p>
会議内容	<p><b>1 部活動の地域展開について</b></p> <p>【説明者：学校教育課】 部活動の地域展開について説明</p> <p>【質疑・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市と他市町の状況で異なる点や現状の課題があるか。</li> </ul> <p>⇒指導者の確保はどの市町でも課題であると聞いている。文化協会やスポーツ協会の方は指導者派遣について、所管課から説明・対応いただいている状況にある。また、安全面や指導者の見る体制などいろいろな心配の声があり、課題であると認識している。先進的に取り組んでいるところを参考にしながら本市にとって良い形で実施できるよう考えていきたい。（学校教育課）</p> <p>【委員の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この取組は、子どもたちが学校以外に居場所を見つける良いチャンスになると思う。しかし、保護者の送迎が必要になる教室でもあるので、今後地域を巻き込んで各中学校区で実施されていくよう尽力したい。</li> </ul>

- ・初めての試みはリスクを考えがちだが、特に指導者確保に関しては、本取組の意図を十分に理解いただいた上で、指導いただくことが重要と考える。
- ・今後、次期指導要領にも位置づけされると記載があり、より学校とクラブの連携が必要となる。さらに、学校と地域の連携もよく検討して、今後の発展の仕方については、十分な準備期間をとりながらやる必要があると思う。
- ・種目によって、生徒数に対する指導者数は異なり、安全が担保できる環境づくりには早い段階で詳細に議論をする必要があると考える。  
また、指導者のレベルや環境によって差が生じることもあり、他地区の教室への参加を希望することも想定される。目標設定等をしっかり共有して、9月に向けて準備を進めていただきたい。(市長)

## 2 義務教育学校の開校に向けて

### 【説明者：学校教育課長】

義務教育学校の開校に向けて説明

### 【質疑・意見】

- ・小中一貫教育を進めるにあたり、教員にとってのメリットやデメリットのようなものが考えられるか。  
⇒小学校入学から中学校卒業までのイメージを小中学校間で共通認識を持って、同じ方向を見た教育を実現できるメリットがある。一方で、全ての教員に小中一貫教育とは何か具体的に落とし込めていない状況にある。教員用リーフレットや地域や保護者に向けたリーフレットを作成し、向かうべき方向性を周知していきたい。(学校教育課)
- ・小中一貫教育を進めることで教員の業務量はどうなるのか。  
⇒西浦学園では、同じ施設に前期課程と後期課程の子たちが一緒に生活するため、教科担任制により各先生が子どもたちに向き合う時間の確保につながると思う。小中一貫型の施設分離型では、目指す子ども像を1つの軸としてつなげ、お互いにやる内容が被らなかつたり、より精選した授業内容に取り組んだり、授業作りの部分での働き方改革ができると考える。(学校教育課)

### 【委員の主な意見】

- ・これまで小学校・中学校では、相互にどんな指導を受けてきたのか、また受けるのかが見えていなかったが、小中一貫校とすることで「目指す児童生徒像」に向かって、指導していける事が非常に大きな点である。(教育長)
- ・これまで以上に地域の方に協力いただく形になると思うので、楽しみにしている。
- ・学校運営協議会やコミュニティスクールの活動を続ける中で、地域とのつながりが年々深くなっていると感じている。子どもたちにもその意識が伝わっており、保護者にもだんだんと広がっている。そし

て、この小中一貫教育をするタイミングとなり、こうした思いが伝わりやすい土壌ができてきていると実感を得ている。

- ・西浦学園ができて、保護者の間では最先端の教育が施されていくような印象を持つ方もいるので、それぞれの地域でも同様に地域に沿った教育がされていくことをもっとPRしてほしい。
- ・令和5年度から西浦中学校区と同様に施設分離型ができる蒲郡中学校区で小中一貫教育の取り組みを推進してきた。昨年度は研究発表会が蒲郡南部小学校で教育の在り方を見ていただき、今年は蒲郡中学校で行われる。大きな成果を上げているところをぜひ他の地域の学校にも広げていただき、市全体で小中一貫型の施設分離型の教育を推進していけるととても良いと考えている。
- ・西浦学園が令和8年4月から始まり、目標には「グローバル教育」という言葉がある中で、小中一貫として学校の特色を打ち出せる学校長の役割は非常に大きいものと思っており、期待をしている。特にグローバル教育の中でも英語教育においては、国際感覚を身に付けて世界で活躍できるような人材が育つと良いなと思っている。市内でも英語を用いて国際的な交流ができる人材が多くおり、そういう方々と子どもたちが接することが非常に大事なのかなと感じている。  
また、西浦学園は教育界だけの話ではなく、周辺の住環境も整えていくような動きになってほしい。教育環境+まちづくりとして市の活性化も図られるような相乗効果が西浦をはじめ各地域にも波及することを期待している。(市長)
- ・東三河で初めての義務教育学校ということで、周りからも大変注目されているが、教員の方々には失敗を恐れず、のびのびと教育していただきたい。その結果が子どもをのびのびと育てることにつながると思う。そして、他地域や市外からも人を呼び込める魅力を秘めたものでもあると感じているので、西浦の良い土壌の中で良い教育環境を展開していただけることを期待している。

### 3 教職員の働き方改革について

【説明者：学校教育課長】

教職員の働き方改革について説明

【委員の主な意見】

- ・「学校以外が担うべき業務」の部分でも地域ボランティアだけでは賅いきれない部分があるため、専門の人材等を置くなど、予算を含めて市のサポートをお願いしたい。
- ・子どもを育てる前に、教員が充実して生きがいを持って、教育ができる環境を作ることがとても大事だと思うので、市も協力いただき、私たちだけでは賅いきれない部分をご理解いただけるとありがたい。
- ・教育委員会だけでなく市長部局とも連携して取り組むべき問題であるので、教員の働き方改革が進んでいくように取り組んでいきたいと思う。(教育長)